

Japan Golf Market Annual Review 2025

ゴルフマーケットデータ 2025

ゴルフフェア2025 ゴルフ市場活性化委員会（GMAC）セミナー配布資料 2025年3月7日

\ 始めよう、続けよう、もっとゴルフを /



<https://www.golf-gmac.jp/>



Contents

• 各種公開データにみるゴルフ人口	3
• レジャー白書データ	4
• ゴルフ場利用者数の推移	8
• スポーツ庁の世論調査	9
• 今後20年間の人口変化にみる課題	12
• R&AとNGFのデータにみる世界の趨勢	13
• ニーズとウォンツ	16
• 世界のゴルフ振興活動	20
• 各団体からの報告	26

ゴルフ人口の推移

人口減少社会から見えてくる課題

各種公開データにみるゴルフ人口

レジャー白書2024

- ・ゴルフコース

530万人

- ・ゴルフ練習場

510万人

サンプル数：15～79歳対象に
3,303人

スポーツ庁

スポーツの実施状況等に関する世論調査（2023年）

- ・ゴルフコース

518.9万人

- ・ゴルフ練習場

424.6万人

※参加率より推計/18～79歳対象にサンプル数4万人

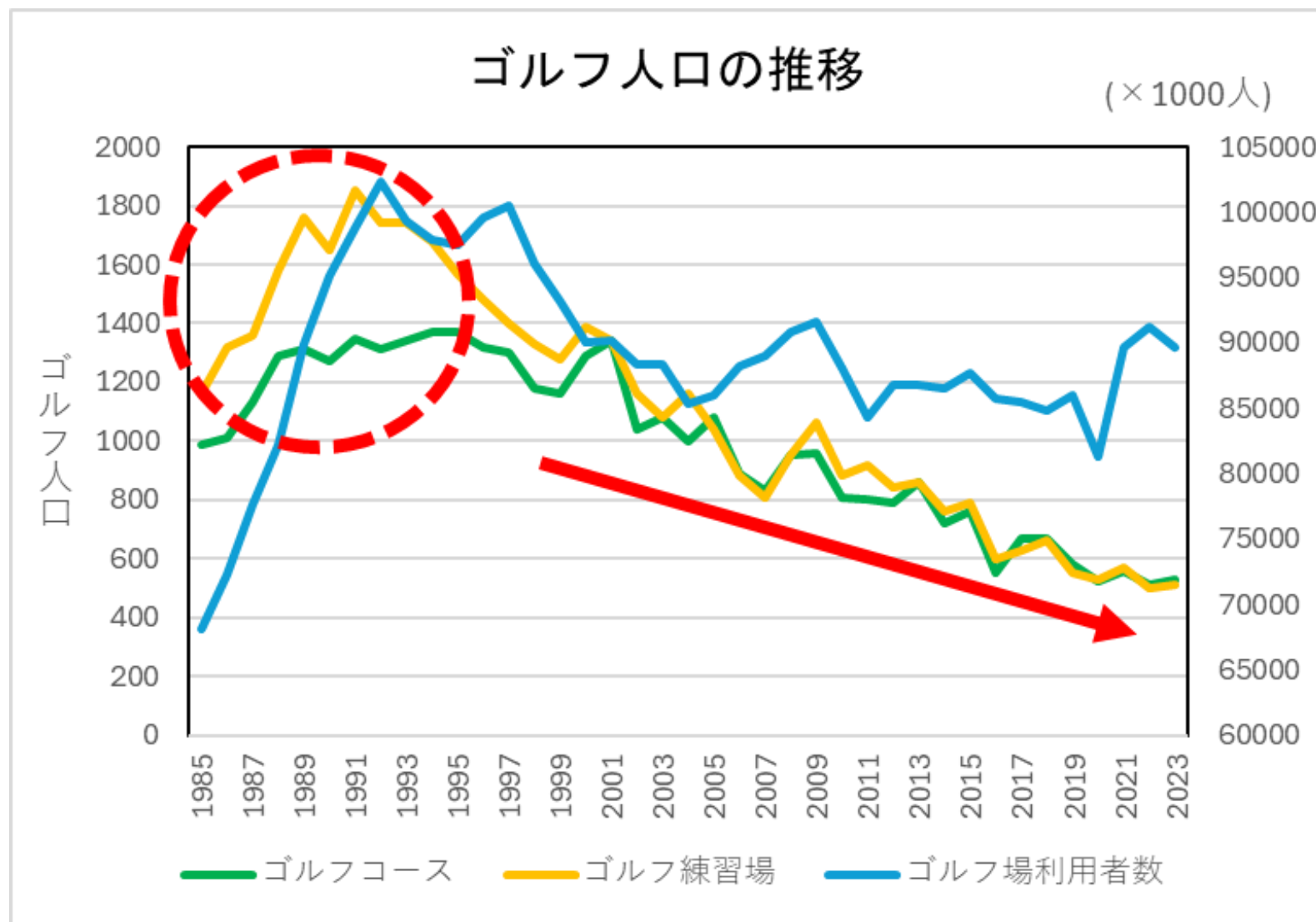
総務省

社会生活基本調査（2021年）

773.8万人

※ゴルフ練習場を含むゴルフ人口/サンプル数：10歳以上対象に約20万人。参加率から推計

ゴルフ人口の推移 レジャー白書2024

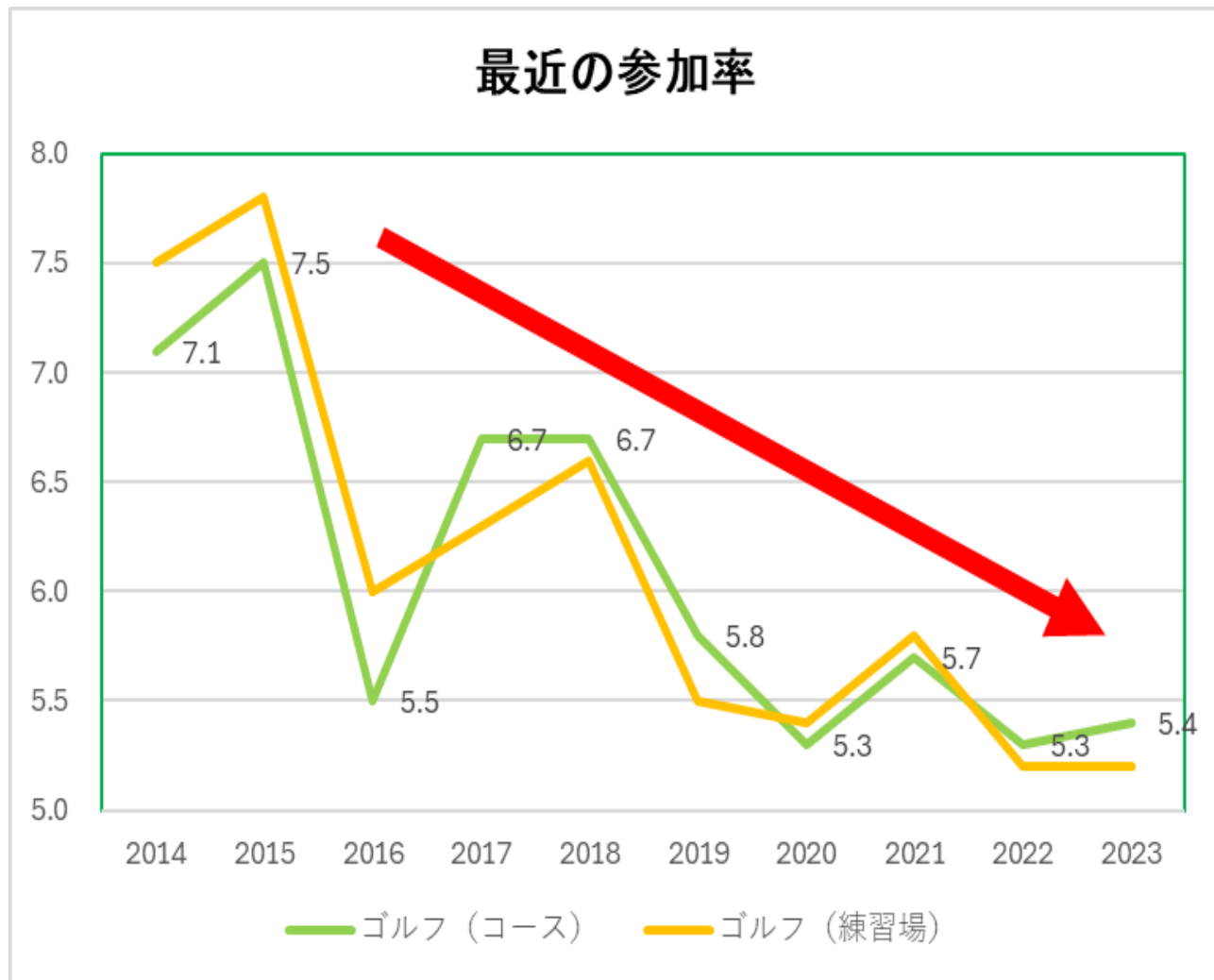


長期にわたる調査データを有することから、経年変化をレジャー白書で確認すると左図のような変化になります。

1980年後半から1990年にかけてのゴルフ人口の増大で分かることは、ゴルフ練習場人口が急激に増大し、ゴルフコース人口が引きずられるように増えていったことです。

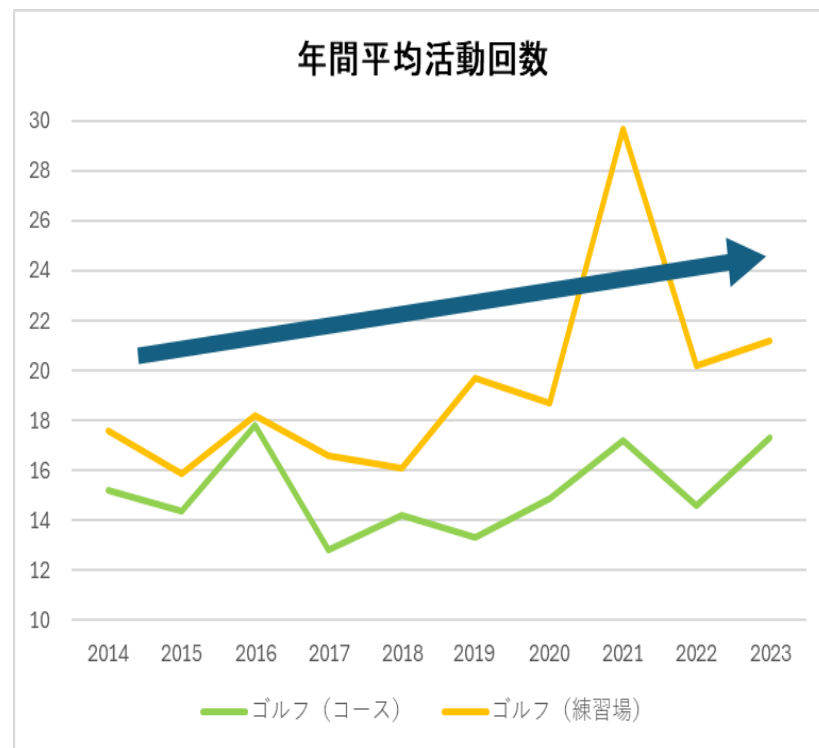
ところがバブル経済が崩壊した以降はゴルフ練習場とゴルフコースの人口は減少傾向を続け、最近では練習場人口がコース人口を下回ってきています。

ゴルフ参加率の変化

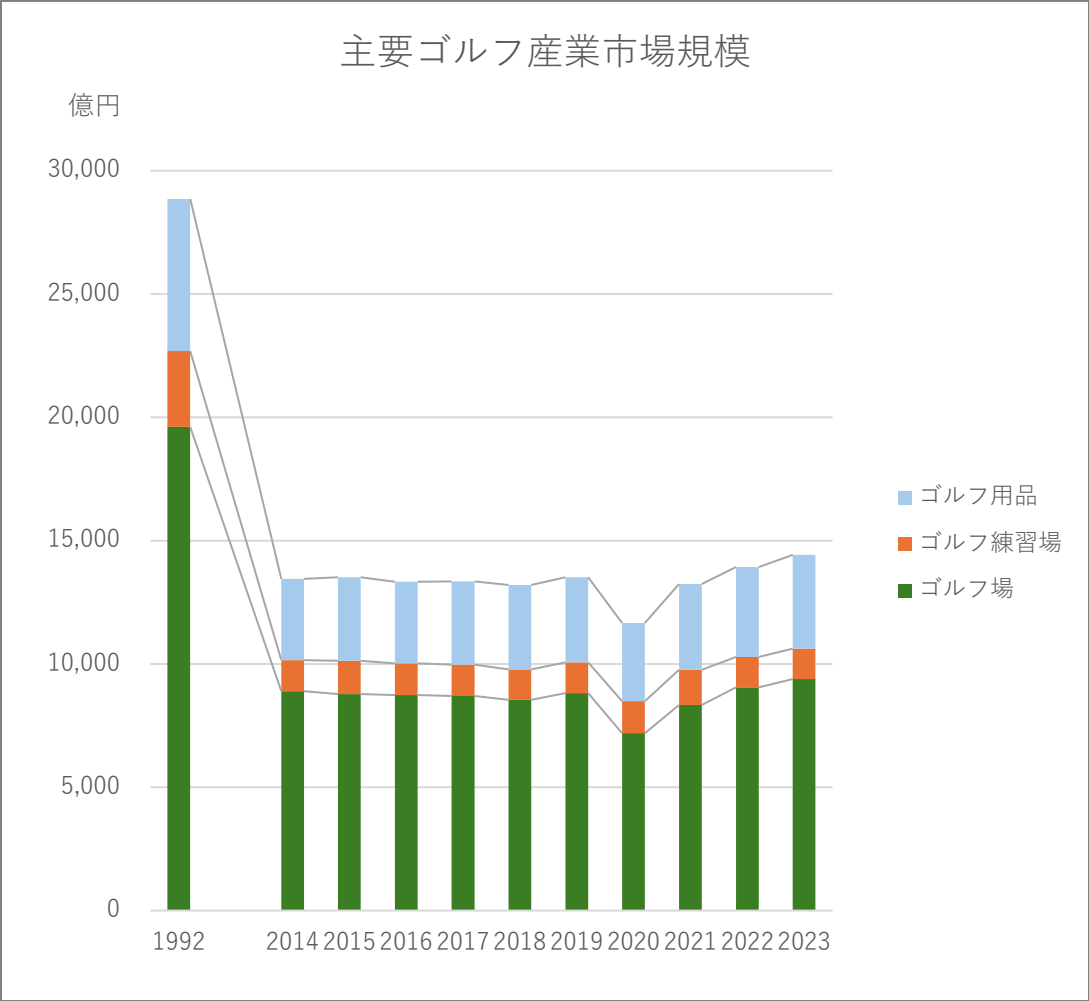


直近の10年間のゴルフ参加率は漸減しています。レジャー白書のデータでは、10年前は7%程度でしたが、最近は5%台へと低下していません。ゴルフ人口は15～70歳が対象で、参加人口は対象人口に参加率を掛けた推計値で、人口減少社会となった日本は、参加率の低下は人口減少を説明しています。

平均活動回数は増えている傾向



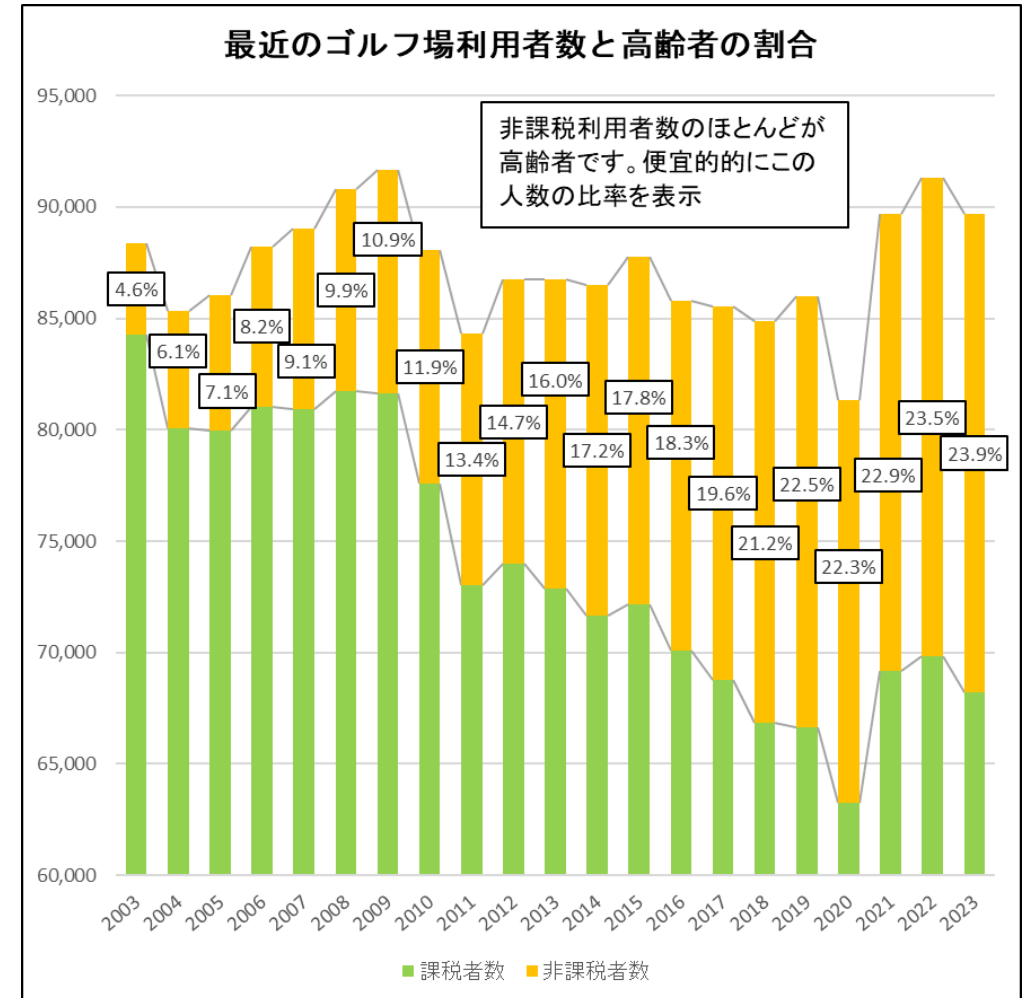
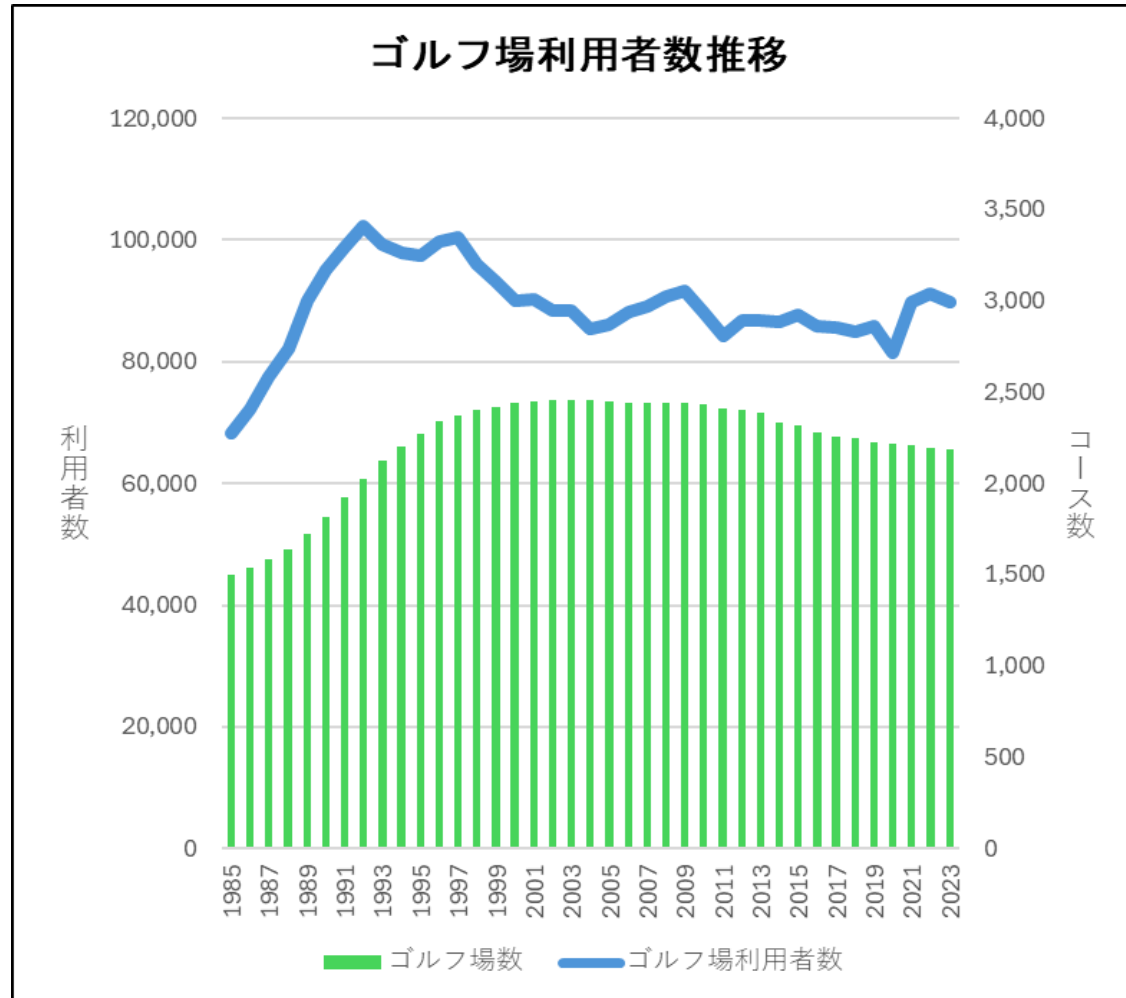
ゴルフマーケット規模の変化



推計ゴルフ市場規模の推移						
	1992	2019	2020	2021	2022	2023
ゴルフ場	19,610	8,820	7,190	8,340	9,050	9,390
ゴルフ練習場	3,080	1,250	1,300	1,430	1,240	1,230
ゴルフ用品	6,170	3,440	3,170	3,470	3,640	3,800
計	28,860	13,510	11,660	13,240	13,930	14,420
構成比		65.3%	61.7%	61.7%	61.7%	61.7%
伸び率	1992	2019	2020	2021	2022	2023
ゴルフ場(%)		3.3%	-18.5%	16.0%	8.5%	3.8%
ゴルフ練習場(%)		0.8%	4.0%	10.0%	-13.3%	-0.8%
ゴルフ用品(%)		0.3%	-7.8%	9.5%	4.9%	4.4%
ゴルフ計		2.3%	-13.7%	13.6%	5.2%	3.5%
GDP		0.3%	-3.9%	0.7%	-0.2%	3.5%

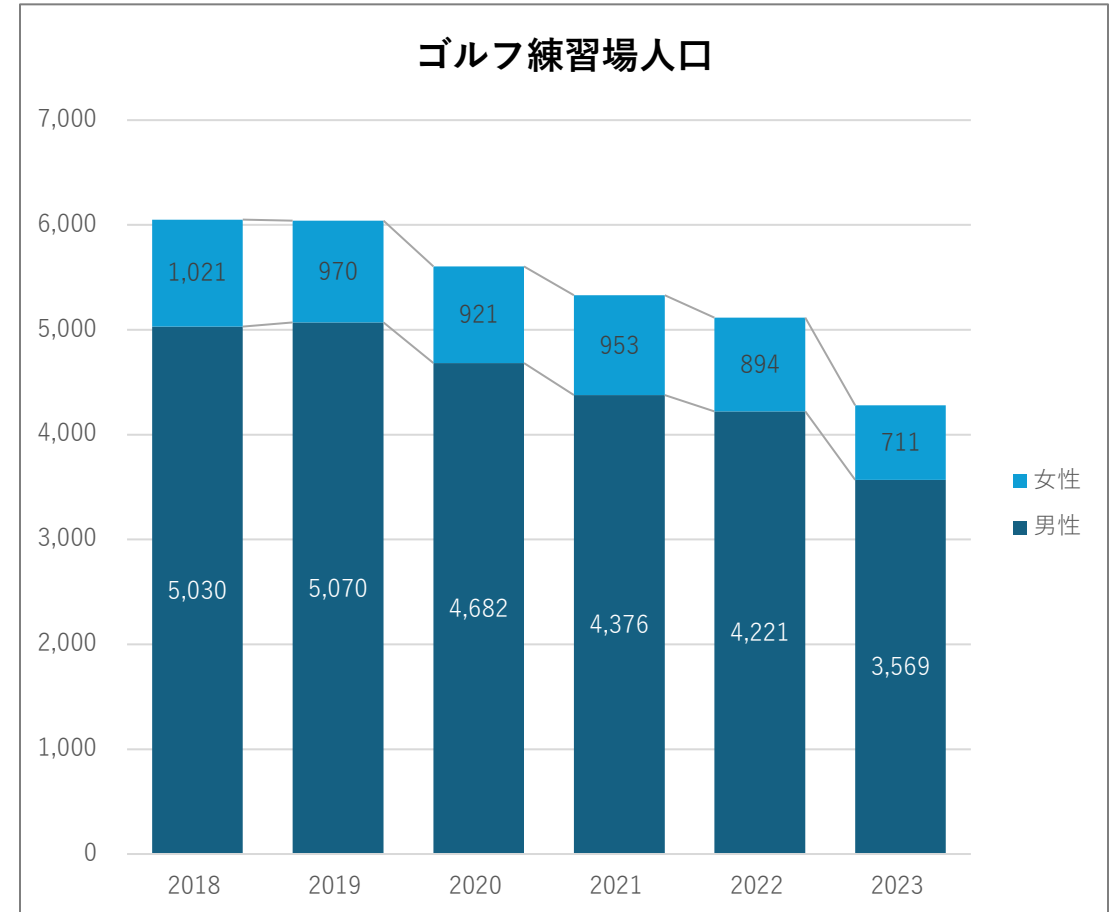
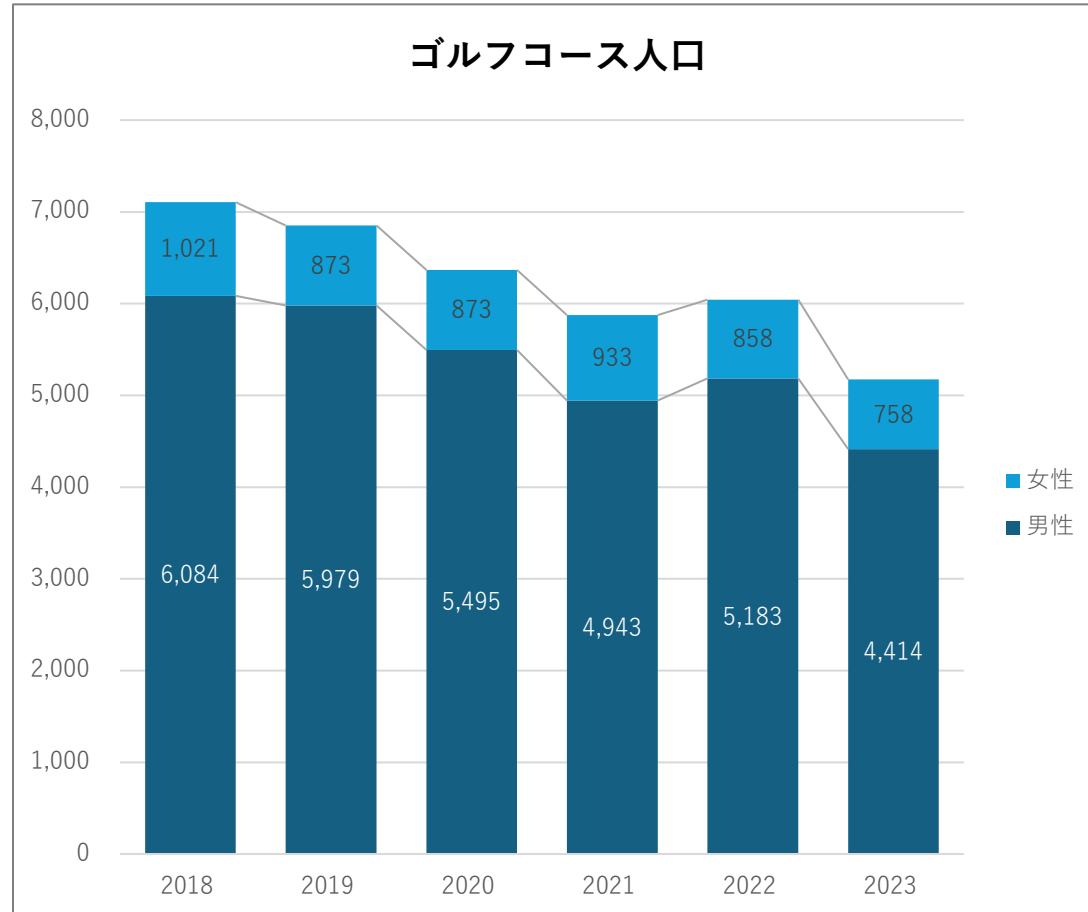
ゴルフ場利用者数

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会（NGK）発表のゴルフ場利用者数の推移と日本の人口が高齢化した結果、ゴルフ人口も高齢化しているというエビデンスです。

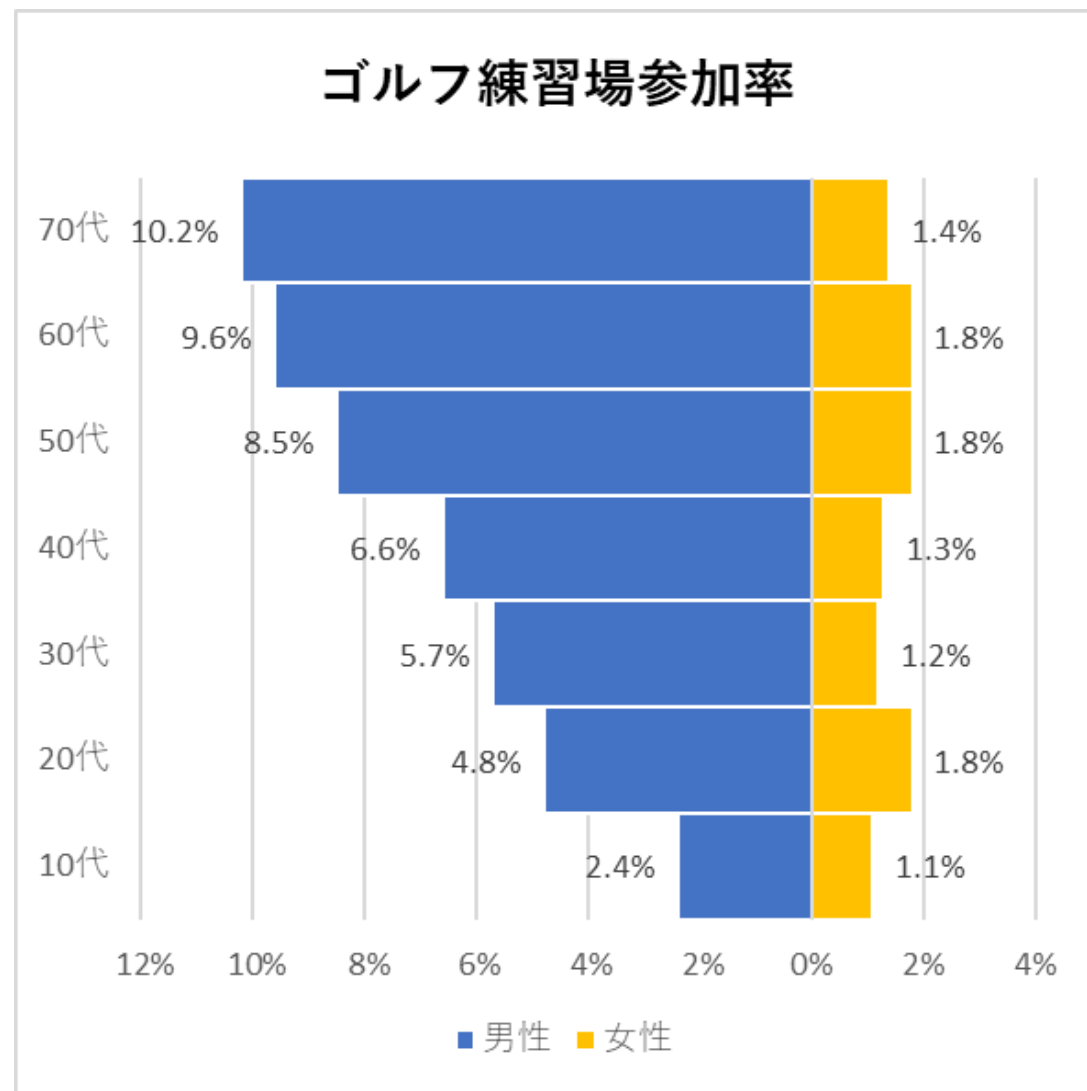
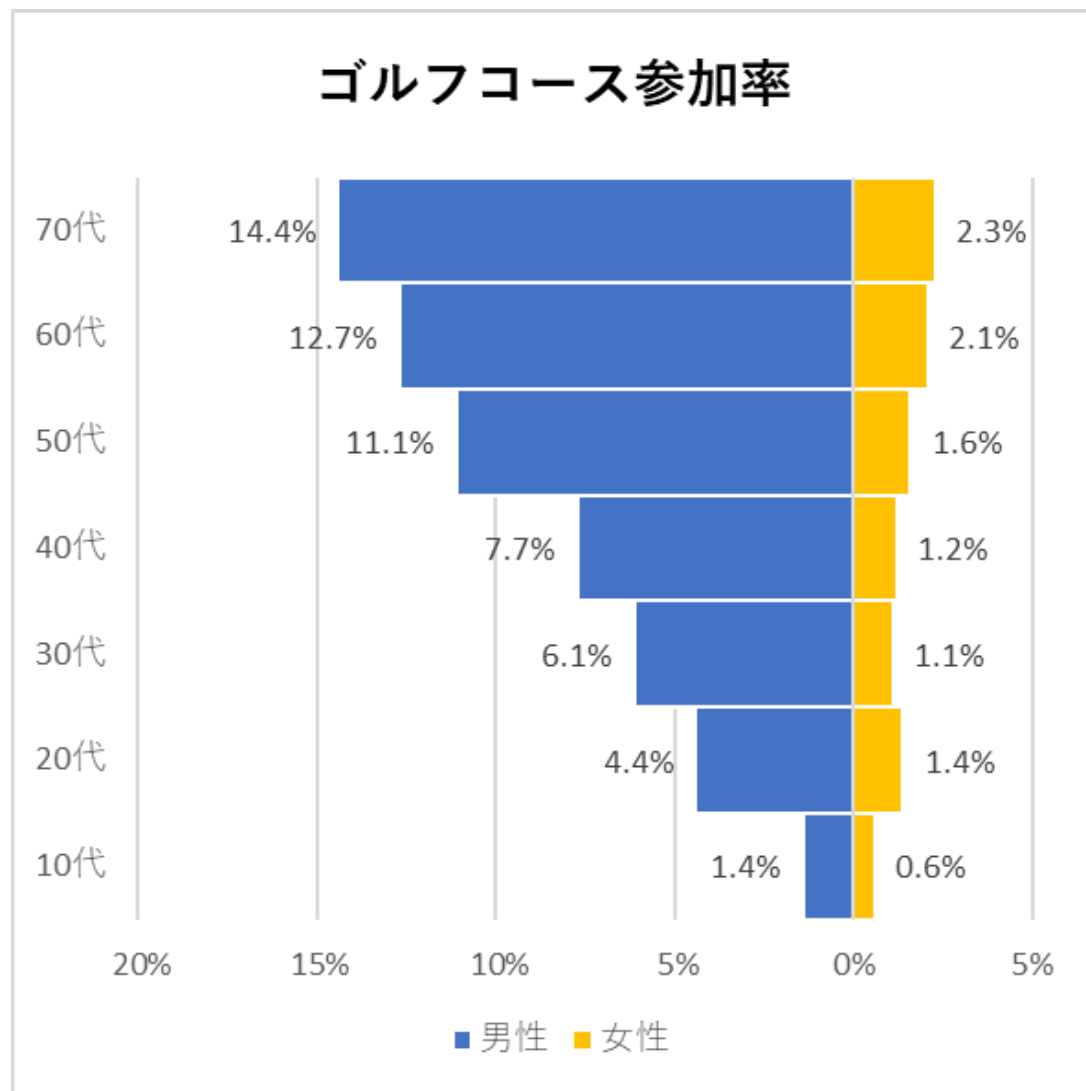


スポーツ庁の 世論調査(2023)

ゴルフ人口推計（千人）						
	2018	2019	2020	2,021	2,022	2,023
ゴルフコース	7,143	6,838	6,353	5,887	6,046	5,189
ゴルフ練習場	6,081	5,972	5,583	5,338	5,119	4,246

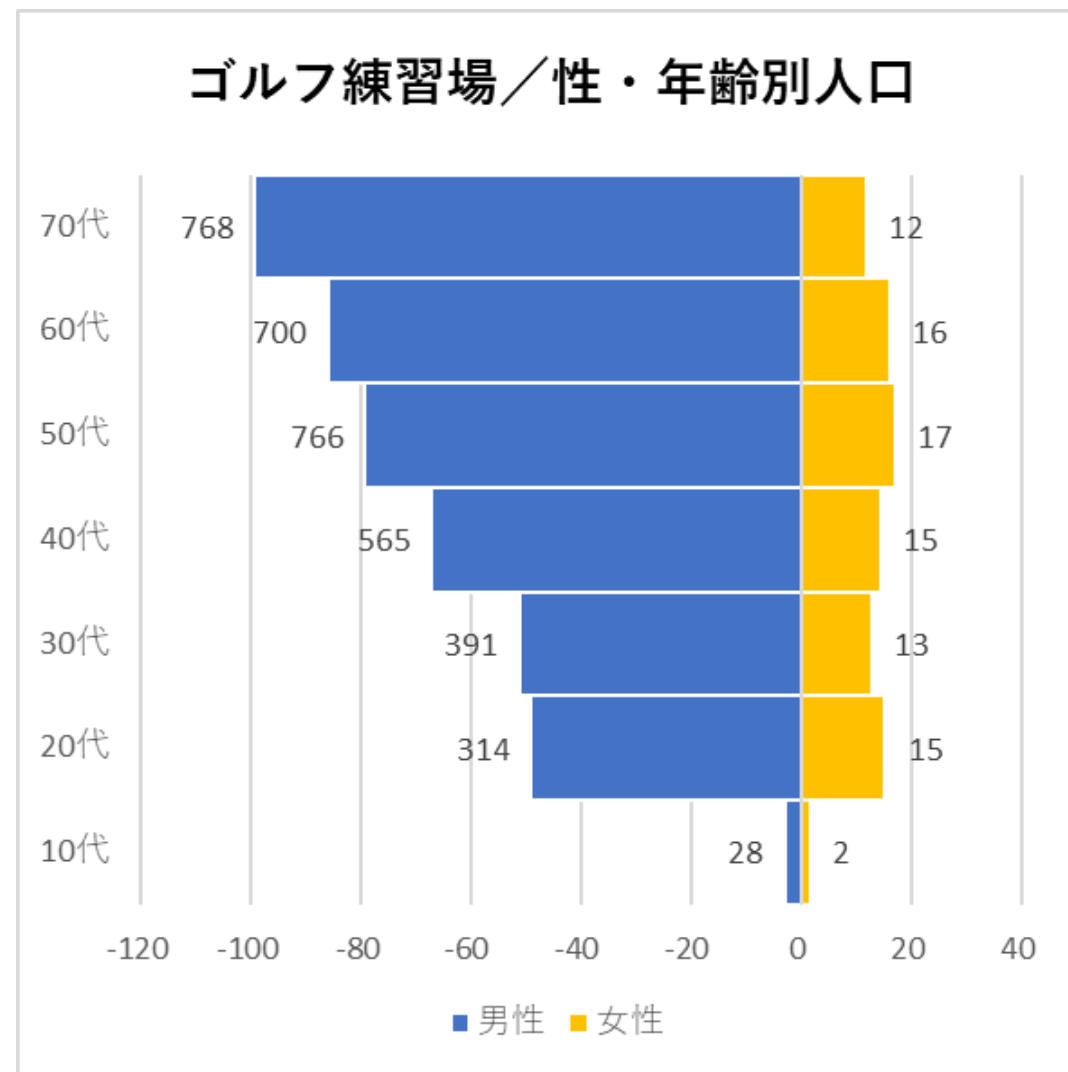
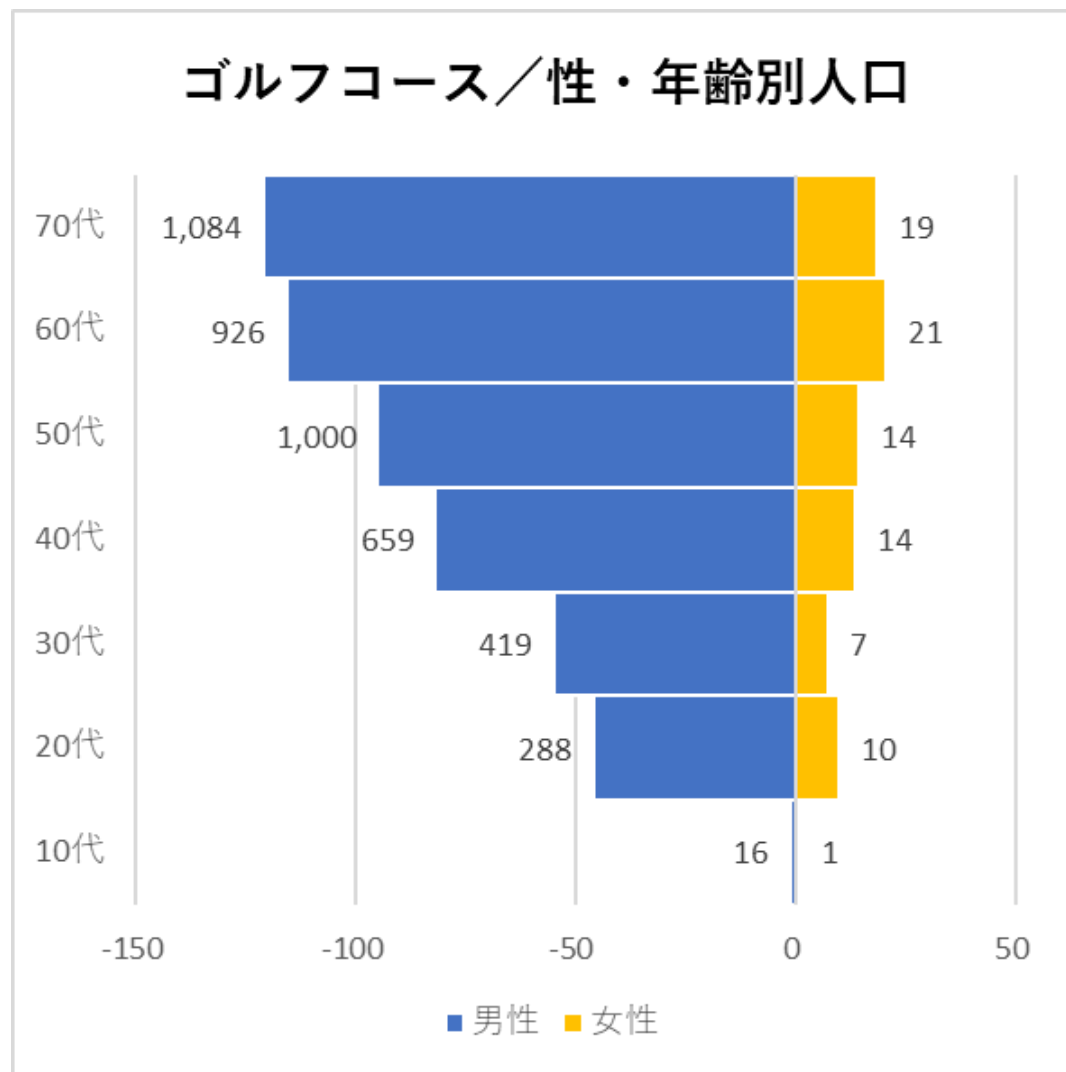


ゴルファーの年齢別参加率

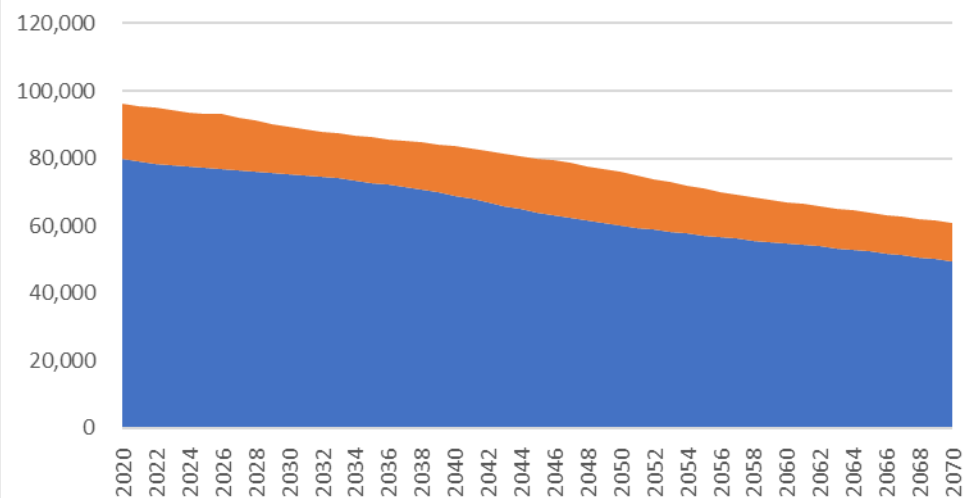


ゴルファーの年齢別人口

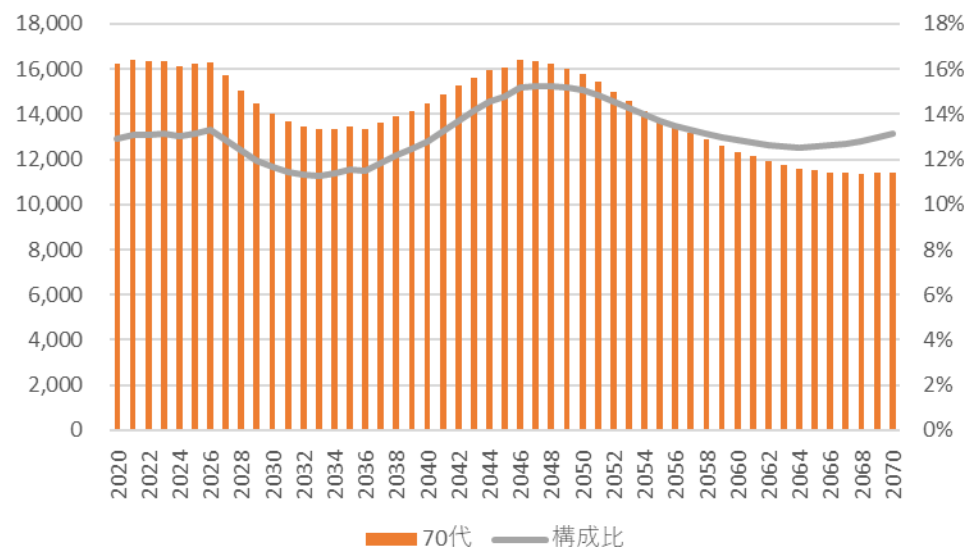
単位:千人



18～69歳以上人口と70歳以上人口の予測



70代人口の予測



少なくとも今後20年間は高齢者対策が重要

ゴルフ人口の減少が予想される中で、高齢者マーケットシェアは2040年に再度拡大？

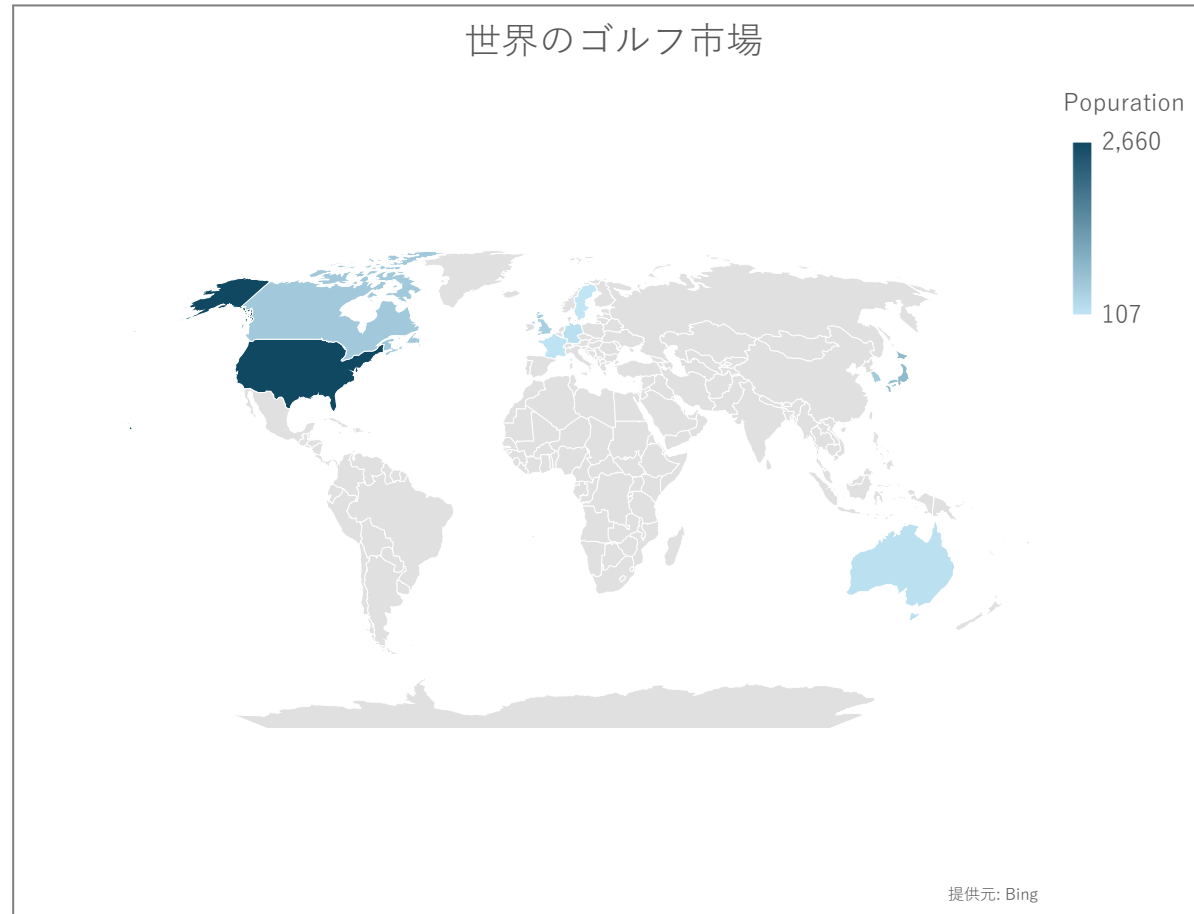
団塊ジュニア世代は1971年から1974年に生まれた人々を指します。したがって、団塊ジュニア世代が70歳になるのは以下の年です。

- **1971年生まれ**： 2041年
- **1972年生まれ**： 2042年
- **1973年生まれ**： 2043年
- **1974年生まれ**： 2044年

シニア対策は、体力に応じたプレー環境の整備が必要であり重要

※日本は人口減少社会になっていますが、英国や米国では高齢化は社会テーマですが人口は増えています。ココが日本と英米との大きな相違点です。

R&AとNGFのデータにみる世界のゴルフ人口

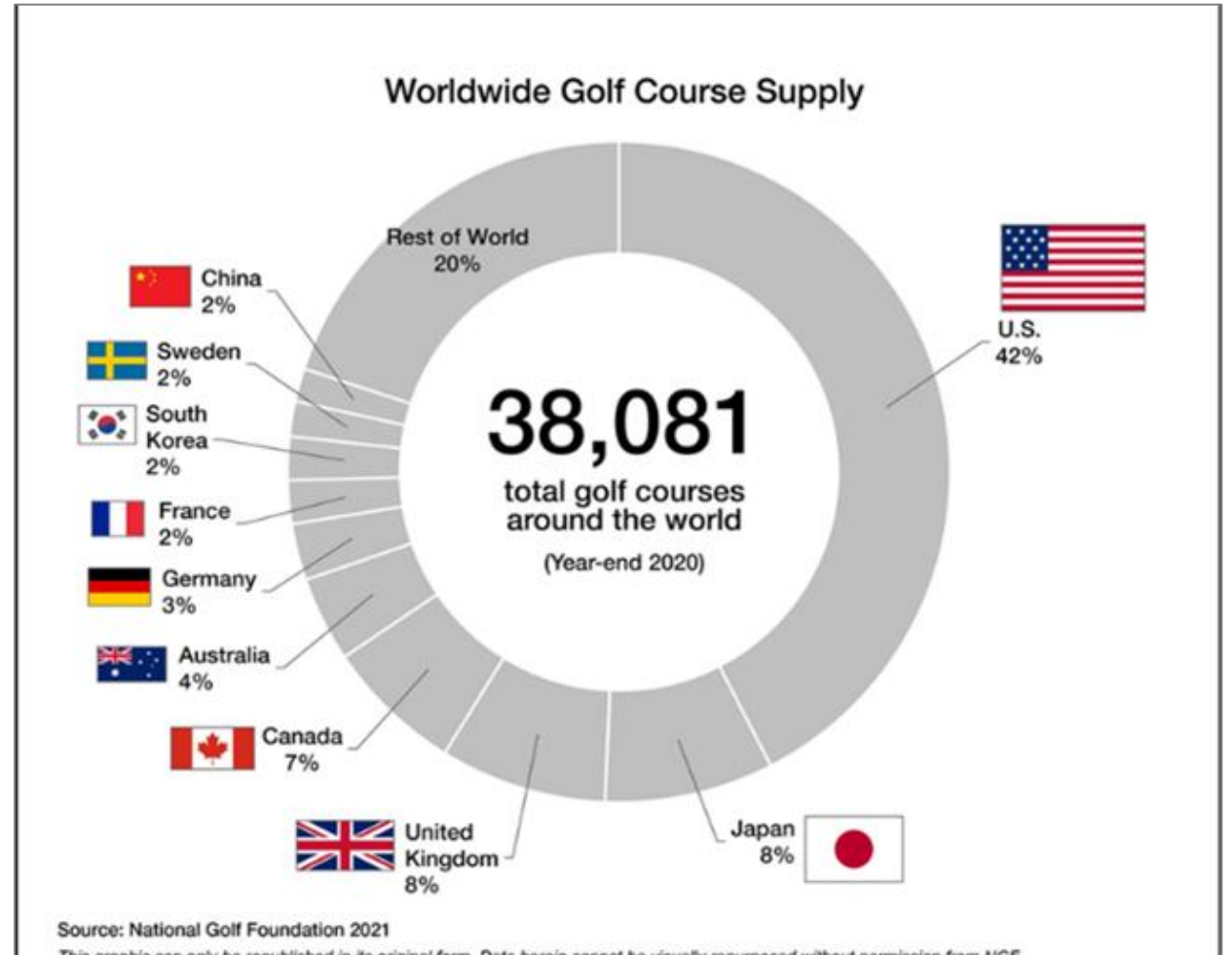
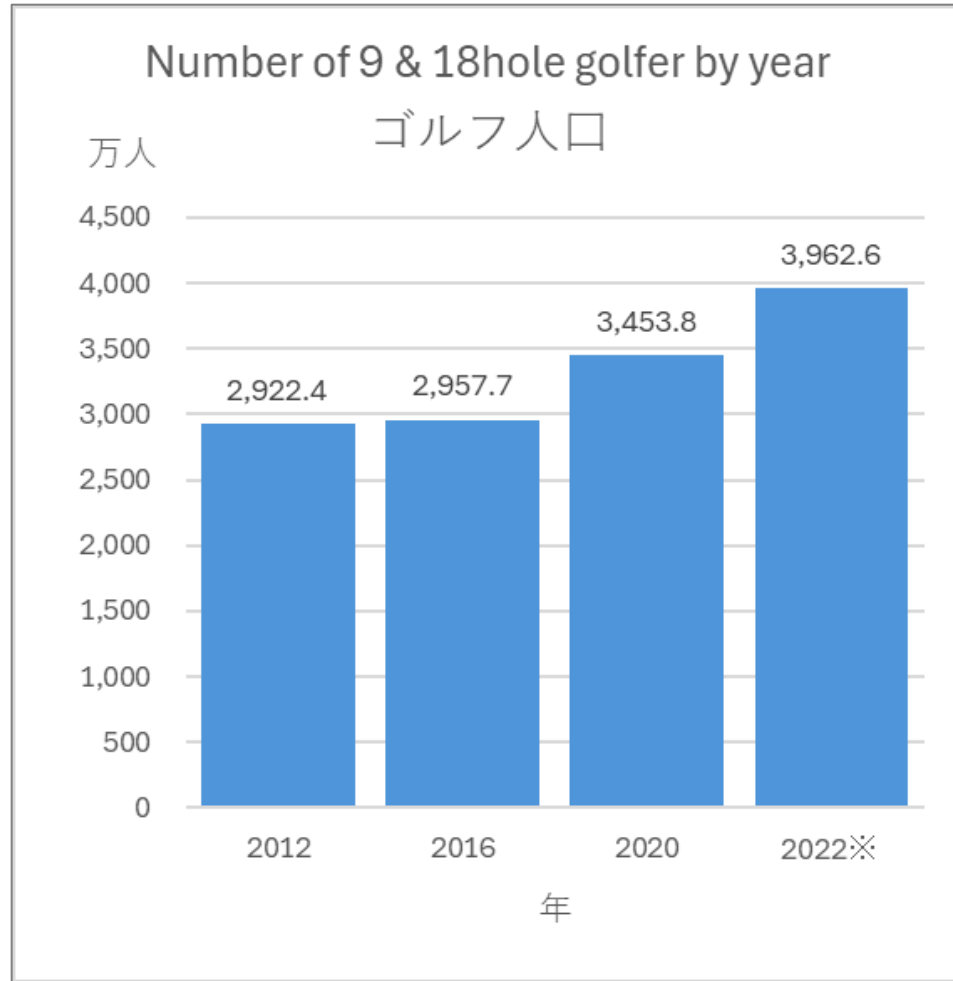


主要国のゴルフ人口（2022年、万人：R&A）

国名	ゴルフ人口
米国	2,660
日本	814
カナダ	559
韓国	535
英国	469
ドイツ	212
オーストラリア	188
フランス	146
スウェーデン	107
※米国は2023年データ（NGF）	
注記；英国国別	
イングランド	3,407,000
スコットランド	966,000
ウェールズ	244,000
アイルランド	68,000

※R&Aのゴルファーの定義は、日本とは違いすべてのゴルフ施設を利用した人口です。英国国別の人口は人単位

世界のゴルフ人口とコース数



最新U.S.情報

2025年1月に発表されたNGFのデータによると米国のゴルフ人口(On Course)はさらに増加して昨年2024年は2,810万人と7年連続して増加。

NGFが注目する伝統的な9ホールや18ホールのゴルフ施設以外でゴルフを楽しむOff Courseゴルファーは毎年増加しており、1,910万人と推計されており、両者を合わせると4,710万人になります。

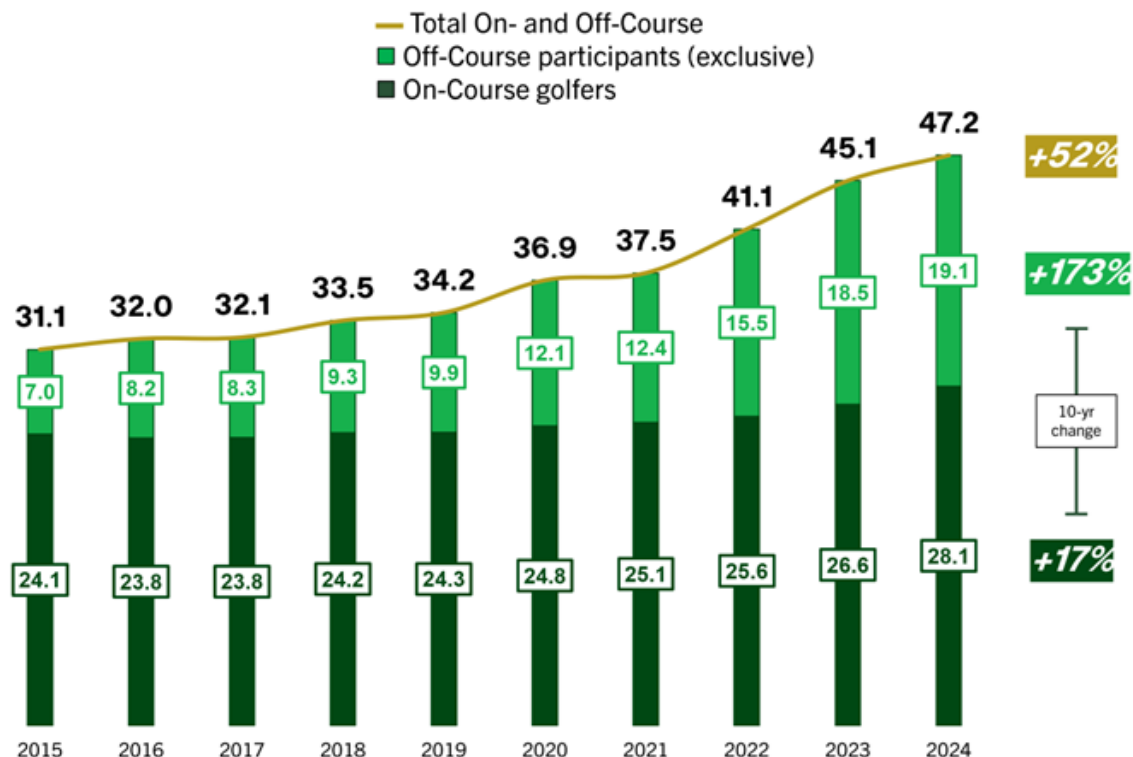
NGFの説明では

1. 大不況とソーシャルメディア時代の到来が、ゴルフのレジャーとしてのポジションに光が当たり、2008年以来、コース上での参加者が最高レベルになった
2. 女性の参加者が過去最高レベルになった
3. 女性および有色人種のゴルフ参加者数が過去最高を記録する
4. 年間プレー回数が4年ぶり3度目の過去最高を更新した
5. 持続する需要と高水準の利用状況
6. 2011年以来の活発な新規コース開発状況
7. 米国のゴルフ場閉鎖は過去20年間で最少だった
8. レクリエーション・ゴルフをめぐる社会的認識と理解がますます好意的になっている

注記: 米国の総人口は訳3億4,100万人で年々増えています。

Total U.S. Golf Participation

Millions, Age 6+



Source: National Golf Foundation – January 2025

This graphic can only be republished in its original form. Data herein cannot be visually repurposed without permission from NGF

ゴルフに対する ニーズとウォンツ

なぜゴルフがしたいか、がニーズ

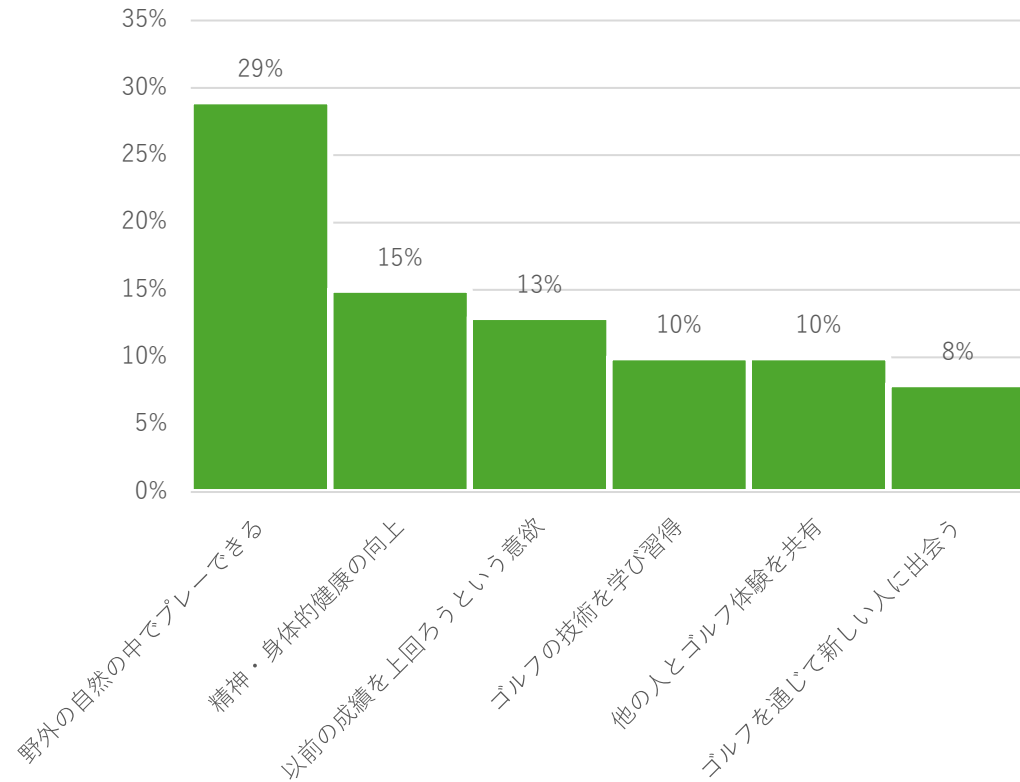
どんなゴルフがしたい、どんなギアが欲しいがウォンツ

そして、時代のニーズWell-beingの実現へ — ゴルフは実現できるか

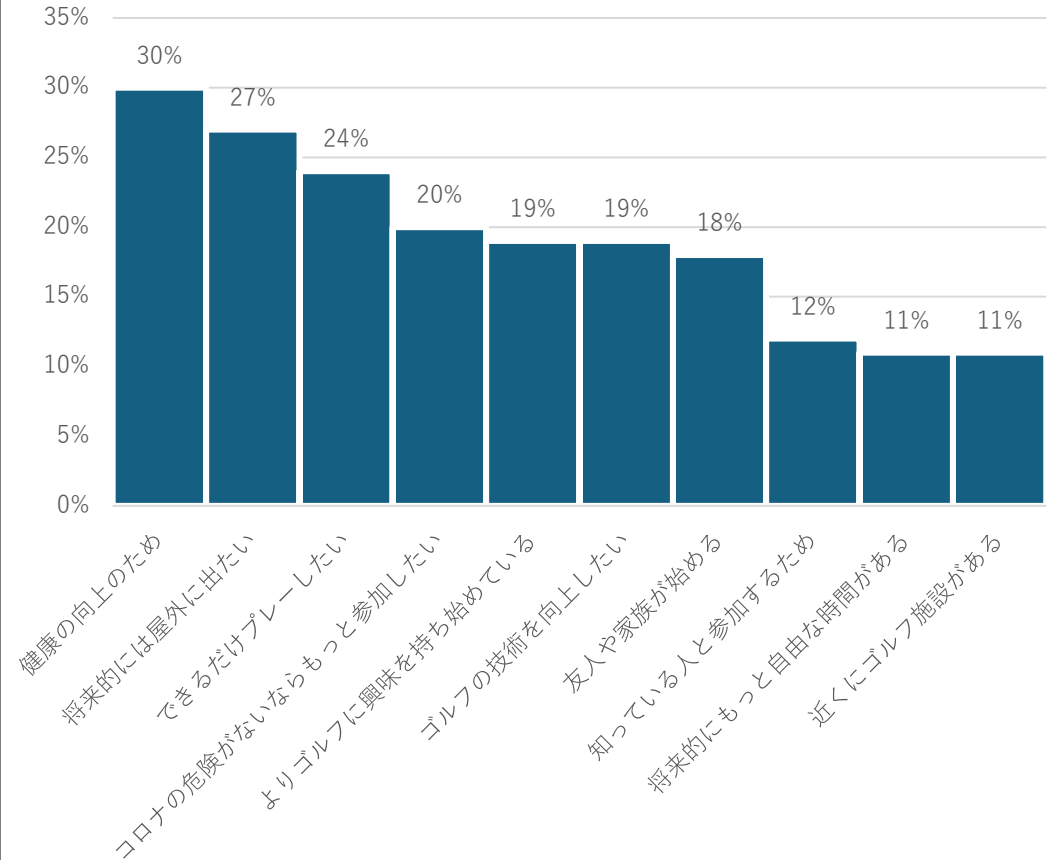
ゴルファーのニーズ

JGA/USGA調査より

ゴルフの魅力



ゴルフを続ける理由



ニーズへの理解：何を求めてゴルフをするのか

ゴルフの評価（R&A調査：日本）

自由感とリラクゼーションを与える	3.6	■リラクゼーションやストレス解消、包括性、健康や運動効果は、ゴルフの利点として広く認められています
あらゆる民族にプレー可能	3.5	
ストレス軽減に良い	3.5	
健康に良い	3.5	
屋外でのエクササイズに良い	3.5	
リフレッシュと元気になるのに良い	3.4	
楽しいスポーツ	3.4	
成し遂げた感がある	3.4	
あらゆる年齢層が楽しめる最高のスポーツ	3.3	
あらゆる身体的コンディションの人に可能	3.3	
主に高齢の人のスポーツ	3.2	
性格形成をするスポーツ	3.1	
包括的かつ歓迎的	3.0	
魅力的な活動	3.0	
尊敬する人、一緒にいる人がプレーする	2.8	■ゴルフをもっと個人的に関係性のある、関連性の高いものに感じさせるためには、まだやるべきことがあります
自分のような人向けのスポーツ	2.5	
自分のような人にいいと宣伝	2.5	

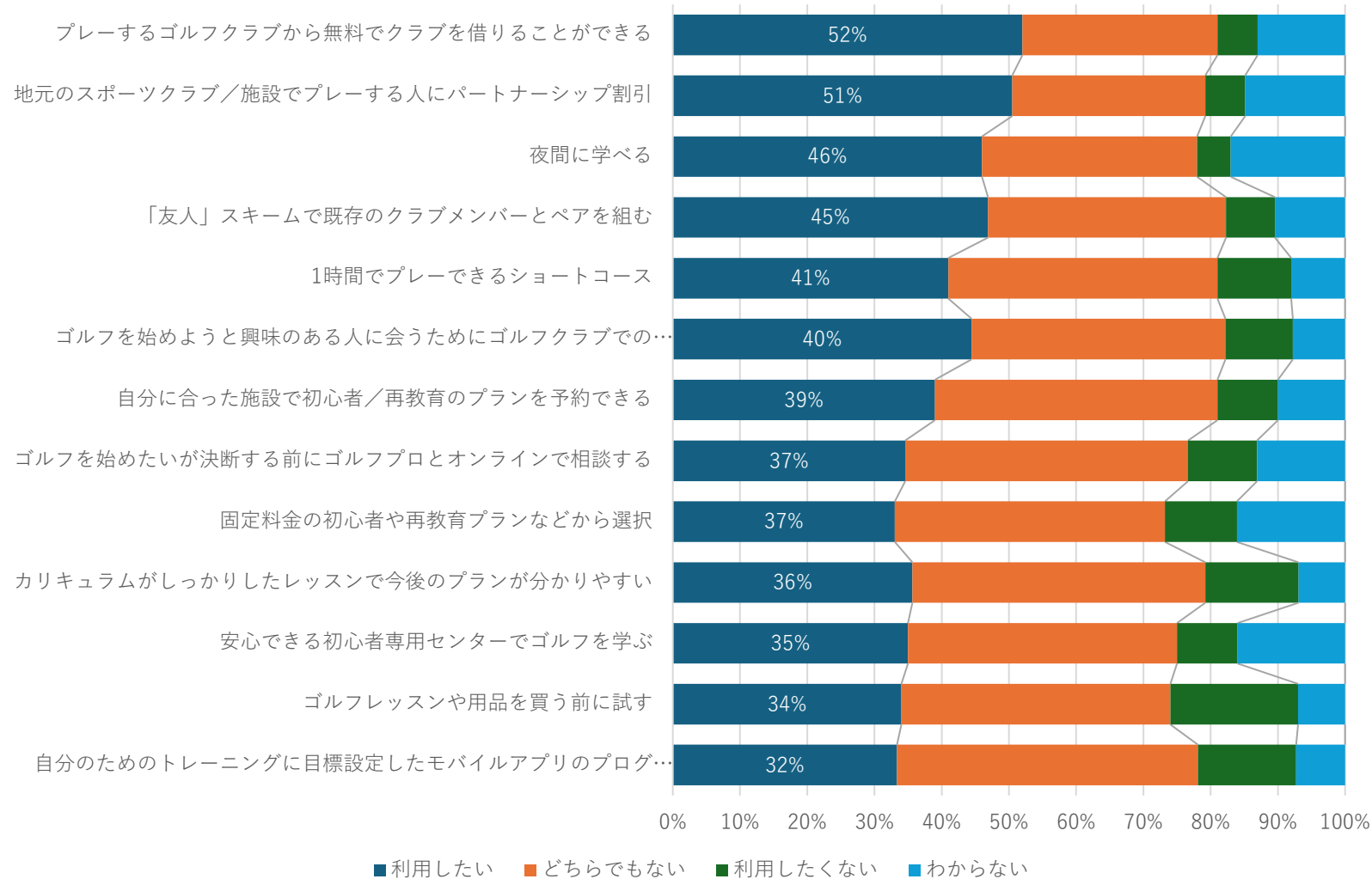
1－5でスコア

• スポーツ庁データ 全体



ゴルファーのウォンツ

欲しい機能・施設 (R&A調査：日本)



- ゴルファーが何を望んでいるかを知ること、提供すべきサービスの確認と理解が進むはず。
- ウォンツのポイント: 高齢化と女性の参加増のカギは、ゴルフがしやすいプレー環境の整備

世界のゴルフ振興プログラム

Well-beingの実現へ — ゴルフは何を実現できるか

米国のゴルフ振興プログラム：ジュニア



- First Teeでは、ゴルフを通じて子供や10代の若者たちをサポートする取り組み
- パートナーにはMasters Tournament、PGA、PGA Tour、USGAと主要メディアといったサポート体制がされている
- 日本は？



PGAのジュニア向けのパットとショットのプログラム：このプログラムは、マスターズ・トーナメント、USGA、PGA of Americaが共同で主催しており、ジュニアゴルファーがドライビング、チップング、パッティングのスキルを競う大会

この他にUSGAが主催するジュニアプログラムにはUSナショナルデベロップメント・プログラムがあり、これは才能のあるジュニアの育成

PGAコーチは、ゴルフを通じて50万人以上の笑顔と思い出を作り、数えています。
日本でも同じ取り組みが薦められている。

女性ゴルファーの育成・支援



- LPGA-USGA Girls Golf:
概要: 女の子向けのゴルフプログラムで、ゴルフを通じて自信とリーダーシップを育むことを目的としています。主な施策:
ゴルフレッスン: 基本的なゴルフスキルの指導。
ライフスキル教育: 自信、リーダーシップ、スポーツマンシップの育成。
- このプログラムは一人の女性プロの取り組みから始まっています。



Women's Golf Dayは、ゴルフを通じて少女や女性を引き付け、力を与え、支援するためのゴルフ業界が取り組む4時間の体験事業
私たちのビジョン
世界中の女性にもゴルフを試す機会を提供することで、業界の成長をリードすること
私たちの使命
世界中の女性や少女がゴルフのゲームを楽しく、身近なものにすること。

日本における女性ゴルファー普及活動
JGA Women's Golf Now



JGAゴルフ応援サイト：女性とゴルフ URL



- ゴルフ振興で女性ゴルファーの育成・支援は重要です。ただ、既存のゴルファーのサポートと新しいゴルファーの育成は分けて考える必要があります。
- 女性ゴルファーの育成は、ゴルフ業界にとって大きな取り組みです、役割分担を明確にして取り組む必要があります。

英国のゴルフ振興

女性のゴルフ参加支援(イングランドゴルフ)



- 英国のゴルフ振興プロジェクトGet into Golf:概要: イングランドゴルフ協会が主導するプロジェクトで、ゴルフを始めたい人々を対象にしています。

主な施策:

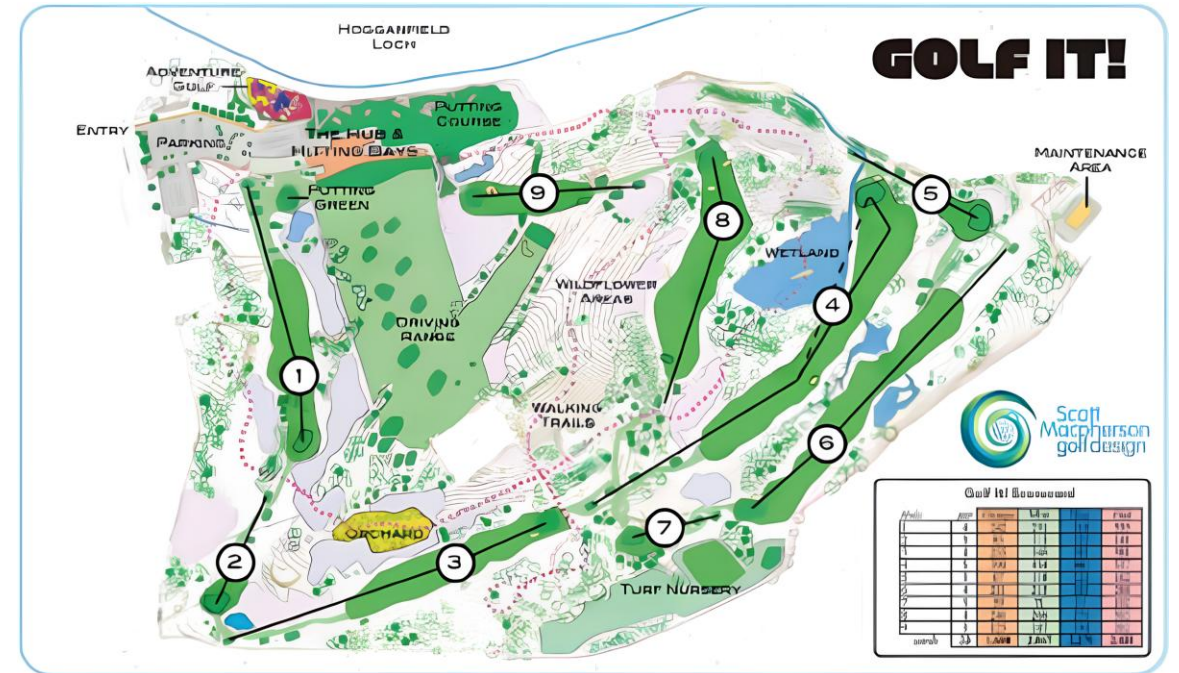
- 初心者向けセッション: 地元のゴルフクラブや施設で初心者向けのセッションを提供。
- マーケティング支援: ゴルフクラブが新規参加者を引き付けるためのマーケティング素材やプラットフォームを提供。
- コミュニティ連携: 地元のコミュニティと連携し、ゴルフの魅力を広める活動を推進

R&AやNGFは、9ホールや18ホールといった伝統的なゴルフだけでなく、練習場、パー3コースや遊びの要素の強いアドベンチャーゴルフまで含めてゴルフゲームと考え始めています。

R&Aの新しい施設: GOLF IT!

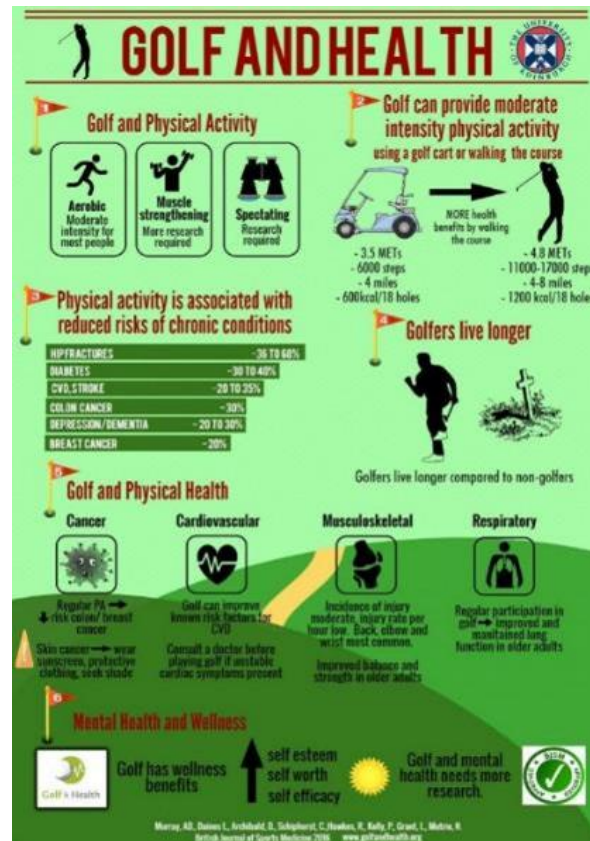
スコットランドのグラスゴーに2023年8月にオープン

Golf It! is The R&A's new community-based golf and entertainment facility in Glasgow



健康に関する取り組み

●R&Aがエジンバラ大学と共同でゴルフと健康に関する調査研究に取り組む



●スウェーデンゴルフ協会等のレポート:ゴルファーは運動をしない人より5年長生き

Scand J Med Sci Sports 2009; 39: 481-478
doi: 10.1111/j.1365-3113.2008.04541.x

SCANDINAVIAN JOURNAL OF
MEDICINE & SCIENCE
IN SPORTS

Golf: a game of life and death – reduced mortality in Swedish golf players

B. Farahmand^{1,2}, G. Bronmar³, U. de Faire¹, D. Vågerö¹, A. Ahlborn^{1,2}

¹Department of Epidemiology, Institute of Environmental Medicine, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden; ²Swedish R&D Science, Stockholm, Sweden; ³Umeå Swedish School of Sports and Health Science, Umeå, Sweden; ⁴Center for Health Equity Studies, CHES, Stockholm University, Stockholm, Sweden; ⁵Stockholm Center for Public Health, Stockholm, Sweden

Corresponding author: Baban Farahmand, Department of Epidemiology, Institute of Environmental Medicine, Karolinska Institutet, PO Box 710, 171 77 Stockholm, Sweden. E-mail: baban.farahmand@ki.se

Accepted for publication 12 March 2008

The specific health benefits achieved from different forms and patterns of leisure-time physical activity are not established. We analyzed the mortality in a cohort of Swedish golf players. We used the Swedish Golf Federation's membership registry and the nationwide Mortality Registry. We calculated standardized mortality ratios (SMR) with stratification for age, sex, and socioeconomic status. The cohort included 300 818 golfers, and the total number of deaths was 1053. The overall SMR was 0.60 [95% confidence intervals (CI) 0.57–0.64]. The mortality reduction was observed in men and women, in all age groups, and in all socioeconomic

categories. Golfers with the lowest handicap (the most skilled players) had the lowest mortality: SMR = 0.53 (95% CI 0.41–0.67) compared with 0.68 (95% CI 0.61–0.75) for those with the highest handicap. While we cannot conclude with certainty that all the 40% decreased mortality rates are explained by the physical activity associated with playing golf, we conclude that most likely this is part of the explanation. To put the observed mortality reduction in context, it may be noted that a 40% reduction of mortality rates corresponds to an increase in life expectancy of about 5 years.

Leisure-time physical activity is associated with decreased risk of illness and premature death but the specific health benefits achieved from different forms and patterns of leisure-time physical activity are not established. People engage in a variety of different sports and exercises partly because they expect health benefits. Most studies on associations between leisure-time physical activity and health risks use information obtained from questionnaires or interviews to assess physical activity and data are often transferred into measures of energy expenditure. A different approach is to assess risks of disease or premature mortality among people involved in specific activities and to compare them with an appropriate reference population. This approach has the advantage of providing information about health benefits, or risks for that matter, related to specific types of leisure-time physical activity. It makes it possible to consider dimensions such as duration of sessions, variation in intensity, which muscle groups are involved, seasonal variations, etc. Studies on specific sports and types of exercise have been conducted on rowers (Schiaffino et al., 2000), long-distance skiers (van Someren et al., 1990), and long-distance skiers (Farahmand et al., 2003) as well as on elite-level athletes in a variety of disciplines

(Sarna et al., 1993). Common endpoints have been total or cardiovascular mortality but studies have also looked at more benign outcomes such as injuries (McLarty et al., 2007) and musculo-skeletal disorders (Vingard et al., 1995).

Golf is a popular sport worldwide attracting an increasing number of practitioners. The Swedish Golf Federation (SGF) has more than 600 000 members, out of a population of 9 million people. Golf is a low-intensity leisure-time physical activity for which sessions, at least in Sweden where golf carts are not frequently used, last about 4 or 5 h and involve walking 5–6 km. While golf can be played around the year in many countries, the season in most parts of Sweden is limited to around 6–8 months depending on the geographical area. There are no age restrictions in playing golf and many elderly are highly active. The purpose of the present study was to analyze the mortality among Swedish golf players compared with the general population.

Material and methods

Almost all Swedish golf players are members of a golf club associated with the SGF because this membership is required for playing on nearly all golf courses in the country. The SGF

健康に関する知識

WHO(世界保健機構)の提案は
「持続的な運動習慣の提案」

●スポーツ庁の提案

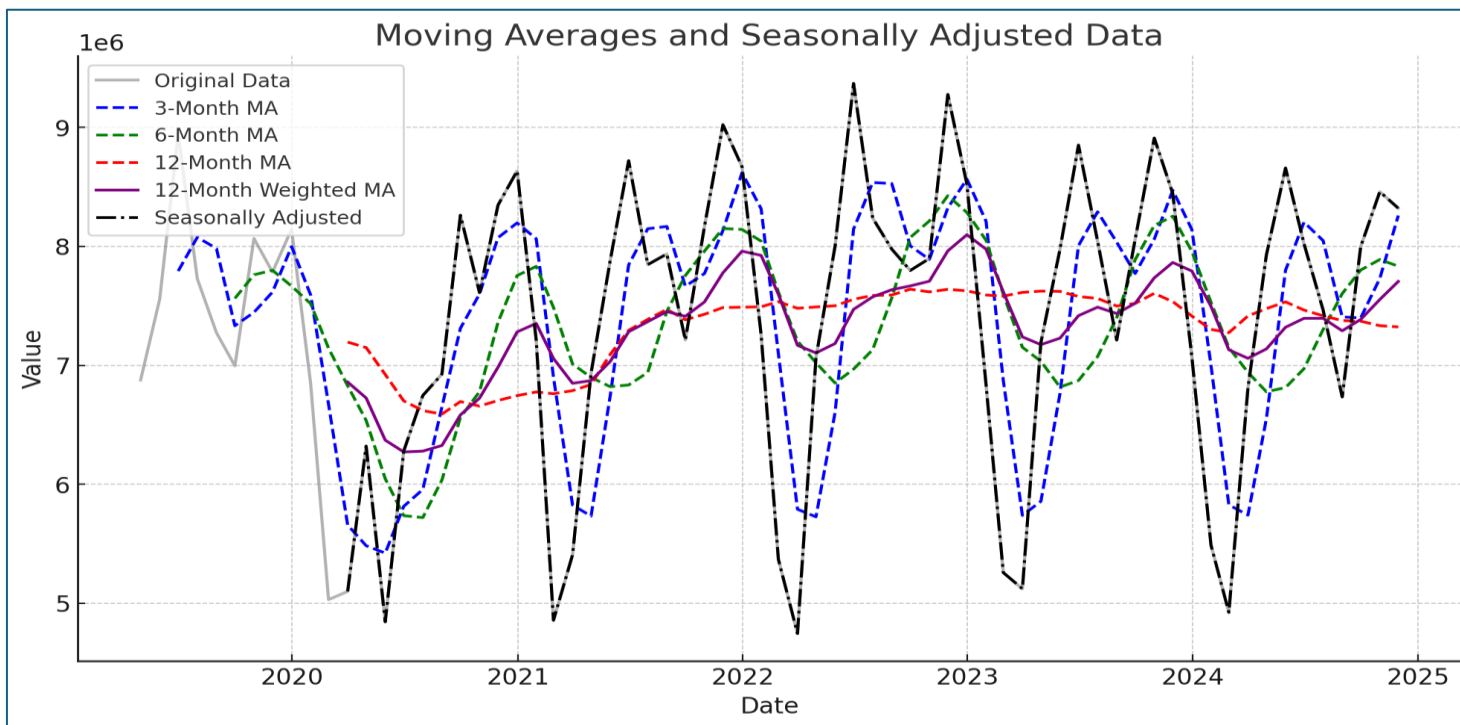


期待される効果

- 2000歩 ⇒ 寝たきり
- 4000歩 ⇒ うつ病
- 5000歩 ⇒ 認知症、脳卒中
- 7000歩 ⇒ ガンなど
- 7500歩 ⇒ 体力低下など
- 8000歩 ⇒ 高血圧、糖尿病等

ゴルフは1ラウンドで1万歩以上歩きます

月別利用者総数の変化



ゴルフ場利用者数 速報値の動き 出典：NGK

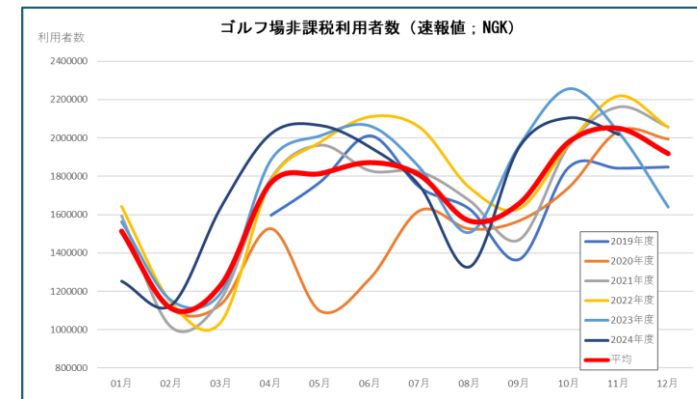
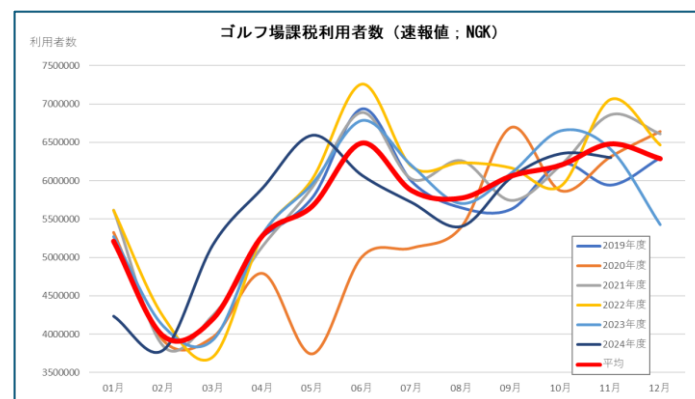
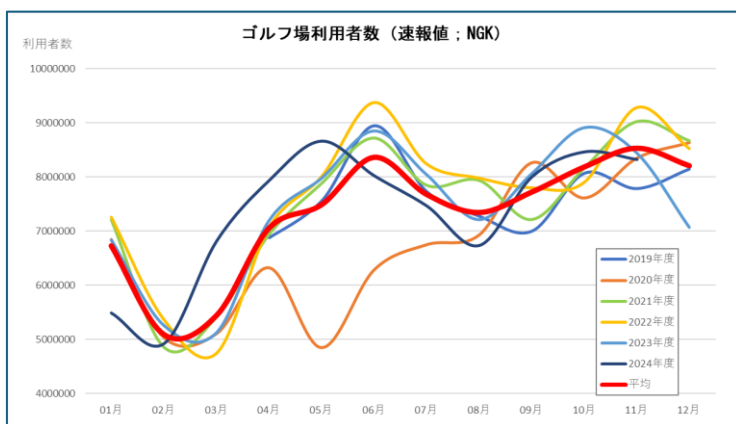
- 日本ゴルフ場経営者協会（NGK）は、NGK Newsで毎月のゴルフ場利用者数の速報値を公表しています。

ホームページ：

<https://golf-ngk.or.jp/>



© 2025 喜田任紀. This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International License.



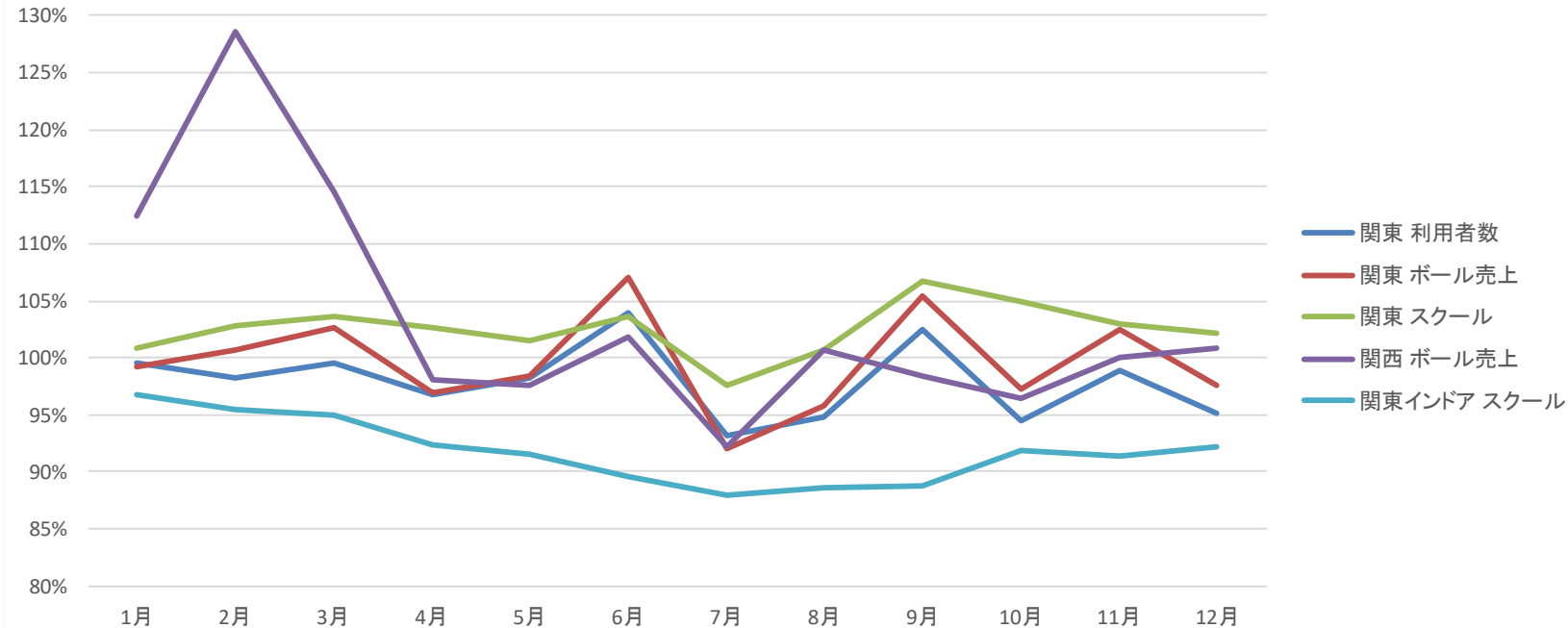
2024年ゴルフ練習場利用状況

全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）調査

●利用者数・ボール売上・スクール生徒数（平均／対前年比）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
関東	利用者数	99.5%	98.2%	99.5%	96.7%	98.3%	104.0%	93.1%	94.8%	102.4%	94.5%	98.9%	95.2%
	ボール売上	99.2%	100.7%	102.7%	97.0%	98.4%	107.1%	92.1%	95.8%	105.4%	97.3%	102.5%	97.5%
	スクール	100.8%	102.8%	103.6%	102.7%	101.5%	103.6%	97.6%	100.7%	106.8%	104.9%	102.9%	102.2%
関西	ボール売上	112.5%	128.6%	114.5%	98.1%	97.6%	101.8%	92.2%	100.6%	98.4%	96.5%	100.0%	100.8%
関東インドア	スクール	96.7%	95.4%	94.9%	92.4%	91.6%	89.6%	87.9%	88.6%	88.8%	91.8%	91.3%	92.2%

ゴルフ練習場営業状況（2024年対前年同月比）



JGRA調査資料

女性ゴルファー普及に関する調査アンケート報告

2025年1月
公益社団法人 全日本ゴルフ練習場連盟
関東ブロック 関東ゴルフ練習場連盟
女性部会

ゴルフ練習場に女性ゴルファーを増やすには 女性の要望は清潔感&レッスン (スクール生を集め、固定化を図り、女性来場者を増やす)



▲お問い合わせください

2023年度練習場市場調査アンケート報告



●ゴルフ市場活性化委員会（GMAC）参加ゴルフ団体と各団体ホームページURL

公益財団法人日本ゴルフ協会（JGA）

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-24-2 八丁堀第一生命ビルディング4階

<http://www.jga.or.jp/jga/jsp/>

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会（NGK）

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-7-6 鈴木ビル3階

<https://www.golf-ngk.or.jp/>

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会（PGS）

〒104-0042 東京都中央区入船2-10-8 オーク入船ビル4階

<http://www.pgs.or.jp/>

一般社団法人日本ゴルフ用品協会（JGGA）

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-11 神田小林ビル4階

<https://www.jgga.or.jp/>

公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟（JGRA）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-17-5 原宿シュロス 303号

<https://www.jgra.or.jp/>

日本ゴルフジャーナリスト協会（JGJA）

〒135-0016 東京都江東区東陽4-12-20-511 株式会社清流舎内

<https://jgja.jp/>